

しあわせの空

本校教育目標

第8号

豊かな心と生きて働く力を身に付けた子どもの育成



令和2年7月17日
熊本市立田迎小学校
校長 松本 公一

○学校の先生

「あた（あなたは）、小学校・中学校って苦勞ばせんだったろ（苦勞をしなかったでしょう）？」

「いろいろ悩みもあって苦勞したと思いますよ。」

「ばってん、学校が嫌とか先生が嫌とかなかったろ（なかったでしょう）？」

先生になっとる人は、そこそこ勉強もできて、学校という文化に馴染んどった人、適応しとった人だもん。」

「そう言われれば、学校に行くのが当たり前と思っていましたし、小中学校と皆勤賞をもらいました。」

これは、私が初任の頃、先輩の先生との会話です。

言われてみれば、学校が嫌で先生が嫌で、学校に行きたくないという経験をしていたら、教師として学校を職場とすることはなかったと思います。先輩の先生は、学校文化に馴染めない子、学校文化に適應できない子がいるし、その子たちの気持ちが分かる先生になってほしいという気持ちだったのだらうと思います。

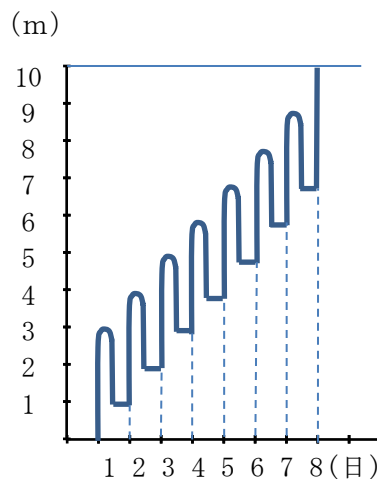
先生（教師、医者、弁護士、政治家…）と呼ばれる仕事に就いている人は、相手の気持ちを慮ることができているかどうか、謙虚に振り返る必要があると思います。（官僚の「忖度」とは分けて考えたいいのです…。）

○ひっかけ問題解答

この問題がなぜひっかけ問題かという、地上に上がったから下がる必要がないからです。

図のように1日目から7日目まで、3m上がって2m下がるというパターンを繰り返して登っていきます。8日目のスタート位置は地上まで残り3mのところ。ですから8日目の昼に3m登ると地上に出られることとなります。答えは8日でした。

このように図を書いて考えると、計算で求めた答えが実際とは違うことがわかります。また、なぜ違うのかも容易に説明できます。この問題に限らず、図を書いて考えると場面の把握が正確になることや説明しやすくなることを理解し、物事を視覚化して考える大切さを感じてもらえたらと思います。



○グリコ・チョコレート・パイナップル

ある子どもたちが、じゃんけんをして、「グリコ・チョコレート・パイナップル」と言いながら階段を上がっていく遊びをしていました。「この遊び、何十年も前からあるな」と思いながら、あることを考えました。「なぜ、グーだけが会社名なのか。」インターネットで調べてみても確かな理由は分かりませんでした。

グーは3歩しか上がれないけれども、チョコやパーを出せば6歩上がれるから勝てる考えるのか、それとも相手がチョコを出すことを予想してグーで3歩稼ぐのか、頭を使うゲームであることが「伝統の遊び」として生き残っているのかとも思いました。